

解答

勘定科目	試算表		修正記入		損益計算書		貸借対照表	
	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方	借方	貸方
現金	5,000						5,000	
現金過不足		250	① 250				0	
当座預金	10,500						10,500	
受取手形	20,000						20,000	
売掛金	60,000		⑩ 1,000	② 2,000			59,000	
貸付金	10,000						10,000	
売買目的有価証券	6,000			⑥ 500			5,500	
繰越商品	28,000		③ 25,500	③ 28,000			25,500	
仮払金	500			④ 500			0	
備品	20,000						20,000	
建物	100,000						100,000	
買掛金		36,000						36,000
貸倒引当金		1,470		⑥ 310				1,780
建物減価償却累計額		41,400		⑦ 1,800				43,200
備品減価償却累計額		3,600		⑦ 1,800				5,400
借入金		30,000						30,000
資本金		120,000						120,000
売上		120,000	② 2,000	⑩ 1,000		119,000		
受取利息		200	⑧ 100			100		
仕入	77,000		③ 28,000	③ 25,500	79,500			
給料	6,900				6,900			
広告宣伝費	2,000		④ 200		2,200			
通信料	4,000		④ 300		4,300			
支払家賃	1,520				1,520			
支払利息	1,500			⑨ 1,000	500			
	352,920	352,920						
雑(益)				① 250		250		
貸倒引当金(繰入)			⑥ 310		310			
有価証券(評価損)			⑥ 500		500			
減価償却費			⑦ 3,600		3,600			
(前受)利息				⑧ 100				100
(前払)利息			⑨ 1,000				1,000	
当期純(利益)					20,020			20,020
			62,760	62,760	119,350	119,350	256,500	256,500

解答仕訳

No	借方科目	金額	貸方科目	金額
①	現金過不足	250	雑益	250
②	売上	2,000	売掛金	2,000
③	仕入	28,000	繰越商品	28,000
	繰越商品	25,500	仕入	25,500
④	通信料	300	仮払金	500
	広告宣伝費	200		
⑤	貸倒引当金繰入	310	貸倒引当金	310
⑥	有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
⑦	減価償却費	3,600	建物減価償却累計額	1,800
			備品減価償却累計額	1,800
⑧	受取利息	100	前受利息	100
⑨	前払利息	1,000	支払利息	1,000
⑩	売掛金	1,000	売上	1,000
	借方合計	62,760	貸方合計	62,760

- ① 現金過不足は、決算日になっても原因が不明であったので、適正な科目に振り替える。

貸方に現金過不足があるという事は、現金が多いという事である。
つまり不明な儲けがあるという事で「雑益」に振り替える。

現金過不足	250	雑益	250
-------	-----	----	-----

- ② 以前2,000円で掛けで販売した商品が返品されていたが、その処理を忘れていた。

売上を取り消す処理をする。取引内容は掛け販売なので、売掛金が減る。

売上	2,000	売掛金	2,000
----	-------	-----	-------

- ③ 商品の期末棚卸高は、25,500円であった。②で返品された商品も含まれている。

試算表に表示されている繰越商品「28,000」は当期首における繰越商品金額です。
つまり、前期末における繰越商品となります。
前期末で残った商品は、今期に販売しますので、費用(仕入)になります。
よって、以下の振替仕訳が必要となります。

仕入	28,000	繰越商品	28,000
----	--------	------	--------

それに対して今期末における商品残高は、今期の費用(仕入)にならず来期に持ち越されます。
よって、以下の振替仕訳が必要となります。

繰越商品	25,500	仕入	25,500
------	--------	----	--------

- ④ 仮払金のうち300円は通信費、残額は広告宣伝費の支払いにかかわるものである事が判明した。

仮払金の内訳がわかったので、それぞれの費目で仕訳を行う。

通信費	300	仮払金	500
広告宣伝費	200		

- ⑤ 受取手形、売掛金および貸付金の期末残高に対して、2%の貸倒引当金を設定する(差額補充法)。

②と⑩の取引から売掛金が1,000円減っている事を加味する。
 $受取手形20,000 + 売掛金(60,000 - 2,000 + 1,000) + 貸付金10,000 = 89,000$
 $89,000 \times 0.02 = 1,780$
 $1,780(\text{設定すべき貸倒引当金}) - 1,470(\text{試算表の貸倒引当金}) = 310(\text{繰り入れる貸倒引当金})$

貸倒引当金繰入	310	貸倒引当金	310
---------	-----	-------	-----

⑥ 売買目的有価証券の時価は5,500円であった。

試算表の表記額6,000円に比べ500円評価額が減っているため、費用が発生している仕訳をする。

有価証券評価損	500	売買目的有価証券	500
---------	-----	----------	-----

⑦ 建物および備品に対して定額法により減価償却を行う。

耐用年数: 建物50年 備品10年

なお残存価額は建物、備品とともに取得原価の10%とする。

建物: 100,000(取得原価) × 0.9(残存価格を引いた金額) ÷ 50年(耐用年数) = 1,800円

備品: 20,000(取得原価) × 0.9(残存価格を引いた金額) ÷ 10年(耐用年数) = 1,800円

減価償却費	3,600	建物減価償却累計額	1,800
		備品減価償却累計額	1,800

⑧ 受取利息は、年利率2%で毎年10月01日に向こう1年分を受け取っている。

試算表の金額=1年間の利息。

これを前受けしているので、来期分を振り替える。

10月01日に12ヶ月分支払っているので、今期分は6ヶ月。

試算表の金額の半分を振り替える。

受取利息	100	前受利息	100
------	-----	------	-----

⑨ 支払利息は、平成12年12月01日に年利率5%で借り入れた30,000円から生じたものの1年分の前払いである。

借入金30,000円の年利率5%なので、一年間の利息は1,500円。

これを前払いしているため、来期分を振り替える。

12月01日に12ヶ月分支払っているため、今期分は4ヶ月。

来期分8ヶ月を振り替える。

前払利息	1,000	支払利息	1,000
------	-------	------	-------

⑩ 平成13年03月10日に掛けで販売した1,000円の処理漏れが判明した。

仕訳漏れなので、掛け売上の仕訳をしてやればいい。

売掛金	1,000	売上	1,000
-----	-------	----	-------